

私共は今回、右側上顎悪性腫瘍摘出後、1年間経過観察をした54才男性の顔面醜形・上顎骨欠損に再建術などを施行し、良好な結果を得たので概要を報告する。

昭和54年8月、松本歯科大学第2口腔外科において、術前放射線療法、化学療法を行った後に、頬部を含む上顎全摘出術および頸部廓清術を施した。その結果、広汎な頬部欠損及び機能障害を生じた。

経過観察期間中はエビテーゼを装着させ機能障害の軽減をはかるとともに、術後観察の容易化、また直接外界の空気にさらされることによる不快感及び感染の予防、患者の心理的負担の軽減等に努めた。

昭和55年9月頬部欠損の再建術を axial patter flap である Deltopectoral flap (Bakamjian 法) を用いて行ない、頬粘膜として利用する為とその先端部には大腿部からの中間層植皮を採取し移植した。術後、現在5ヶ月を経るも生着状態は良好である。

尚、術後3ヶ月で下眼瞼部外反症の形成手術を諏訪赤十字病院で Kuhnt-Szymanoski 法に従い行なわれた。その結果、下眼瞼外反は著しく改善された。

口腔の機能障害には口蓋から鼻腔に及ぶ顎補綴物を用いて改善を行った。今回の症例は硬口蓋部のみの欠損である為に補綴物装着の維持力は良好であり、咀嚼機能の回復と言語の明瞭度は著しく改善された。

以上、私共は上顎悪性腫瘍摘出術後の顔面の醜形(頬部欠損・眼瞼外反など)、機能障害を治療し、ほぼ満足できる結果を得た。

第13回 松本歯科大学学会(総会)開催の案内

◎第13回松本歯科大学学会(総会)は、昭和56年11月28日(土)午後1時より本学に於て開催致しますので、何卒ご出席賜りますようご案内申し上げます。

松本歯科大学学会 会長 加藤 倉三

◎演題募集

講演に出題希望の方は、400字以内(B5原稿用紙使用)の要旨をつけ、11月14日(土)正午までに集会幹事までお届け下さい(講演時間は1題8分の予定)。なお講演終了後、目的・方法・成績・考察の順に書かれた1,200字以内(B5原稿用紙)の抄録を提出していただきます。

松本歯科大学学会 集会幹事